

渡邊和夫名誉教授記念号の刊行によせて

学長 山 本 眞樹夫

渡邊和夫名誉教授記念号の刊行にあたり、一言御挨拶申し上げます。

渡邊先生は、昭和44年（1969年）早稲田大学を御卒業。昭和49年（1974年）早稲田大学大学院博士課程を終えられ本学短期大学部講師として赴任されました。平成3年（1991年）教授に昇任され、本年3月御退職まで、実に36年の長きにわたり本学の教育研究そして大学運営に多大な御貢献をして頂きました。

渡邊先生の御専門は財務会計論であり、特に会計史の分野で顕著な業績をあげられております。現在の世界の会計制度の範となっている、1930～40年代アメリカ会計原則制定運動期の理論的指導者であり会計史研究の先駆者でもあったA.C.リトルトンの会計思想の形成を丹念にたどった研究成果は、先生の博士論文に結実し、御著書『リトルトン会計思想の歴史的展開』として同文館より平成4年（1992年）に上梓されました。この学問成果に対して、翌平成5年、日本会計史学会賞が授与されております。その後、御研究の関心はわが国の会計制度の史的展開に向けられ御著書『財務会計変遷論』（同文館、2007年）等に研究成果をまとめられています。

このように先生は卓越した研究者であるとともに、本学の簿記論、財務会計論等の熱心な教育者でもあり、同時に本学の運営にもきわめて多大な御貢献を頂きました。平成4年、本学短期大学部部長に就任されましたが、同年は短期大学部が商学部夜間主コースに改組された年にあたり、最後の短大部長として夜間主コースへの円滑な移行の指揮をとって頂きました。国立大学が法人化された平成16年（2004年）には、附属図書館長に就任され、法人化された下での従来とは全く異なる図書館運営の基礎をつくって頂きました。さらには、平成20

年、大学院現代商学専攻長に就任され、本学の念願でもあった博士後期課程の設置に御尽力を頂きました。本学にとって重要な節目、節目に枢要な役職にあり、的確な指揮をとって頂きました。

先生のお人柄は、誰もが認める温厚、誠実。学生教職員から慕われ、信頼されてきました。私自身、先輩会計学徒である先生に多くの教えを受け、研究において啓発されてきました。先生の御退職により、本学会計学の、そして大学運営の大きな柱を失った思いがあります。

幸い、先生は御退職後も、小樽に在住され、道内の大学で会計学の教育研究のあたられております。今後とも本学会計学の教育研究や大学運営に御助力を頂けるようお願い致します。